

様式1						令和3年度 清瀬市立 清瀬第二中学校		学校評価計画	
学校の教育目標		愛情 より豊かな 心をつちかう 勤労 よりよくはたらき 責任をはたす きたえる		学力 より深く 自ら学ぶ 健康 よりたくましく 心身を		育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動			
目指す学校像(ビジョン)		【目指す学校像】 「笑顔とあいさつ そして ありがとう」が溢れる清瀬二中 【目指す児童・生徒像】 「自分で考えて行動する力」を持つ生徒 【目指す教師像】 「生徒が主役であることを大切にし、感謝を忘れず、教師であることを誇りに思う教員」				・生涯学び続ける力・人間性の育成 ・ふるさと清瀬を誇りにし、持続発展の主体となる力 ・生きて働く知識・技能の育成 ・考える力、判断する力、表現する力 ・育てたい4つの心「感謝する心」「自他の発言、意見を大切にす る心」「共に学ぶ心」「社会の中で活きている意識」 ・学校支援本部との連携			
前年度までの学校経営上の成果と課題		・学力向上において、各教科における帯活動などの二中スタンダードは定着しているが、本年度から導入されるGIGA対応の授業を進めることが必要である。 ・豊かな心育成には、学校や学年の行事などが活動場面が必要だが、前年度はコロナ禍で中止となった、本年度は、感染予防を取りながらの実施が必要である。 ・健やかな体の育成で、給食を要とした食育をすすられたが、体育において感染予防のため、水泳指導等実施できなかった課題もあり、本年度は感染予防を図りながらの実施が課題である。							
柱	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	取組指標(評価基準)		成果指標(評価基準)			
確かな 学力の 向上	授業の質的充実を図り、共 に学ぶ心を育てる。	学校で共通した授業スタイル(二中 スタンダード)に基づいた授業実践を 行い、学びに向かう姿勢や考え抜く 力、学びを活用、表現できる能力を 育てる。 GIGAスクール構想の導入を進め る。	授業の課題解決のために考える 時間をとり、話し合い活動を通して、 自分が学んだことを活用、表現す る場面を設ける。 ICT機器の校内研修会を進めて、 タブレットPを取り入れた授業の実 施を試みる。	4 教員の授業評価が4段階評価でA・Bが90%以上	4 生徒の授業評価が4段階評価でA・Bが90%以上				
				3 教員の授業評価が4段階評価でA・Bが80%以上	3 生徒の授業評価が4段階評価でA・Bが80%以上				
				2 教員の授業評価が4段階評価でA・Bが60%以上	2 生徒の授業評価が4段階評価でA・Bが50%以上				
				1 教員の授業評価が4段階評価でA・Bが60%未満	1 生徒の授業評価が4段階評価でA・Bが50%未満				
				4 全教科での実施	4 生徒の評価が4段階評価でA・Bが90%以上				
豊かな 心の 育成	自己実現を図る指導を図り、自他を大切にして感謝 をする心を育てる	行事や学級活動において生徒が主 体的に取組ませ達成感を味わわ せ、自己肯定感や自尊感情を高め る。 いじめがなく、生徒一人一人が大切 にされる学級作りを目指し、不登校 生徒Oを目指す。	学校行事や学年行事、学級活動、 委員会活動、さらに授業展開にお いて、生徒が主体的になるような 指導を意識し、計画する いじめ調査や学級環境適応尺度 調査を実施して、学級経営や面談 に活用する。	3 実施率80%以上	3 生徒の評価が4段階評価でA・Bが80%以上				
				2 実施率50%以上	2 生徒の評価が4段階評価でA・Bが50%以上				
				1 実施率50%未満	1 生徒の評価が4段階評価でA・Bが50%未満				
				4 教職員の取り組み評価がA・Bが90%以上	4 生徒の自己評価が4段階評価でA・Bが90%以上				
				3 教職員の取り組み評価がA・Bが80%以上	3 生徒の自己評価が4段階評価でA・Bが80%以上				
健やか な 体の 育成	運動を楽しみ、食を意識し て、健康的に生活すること への関心や意欲を高め る。 自分の生活リズムを見つめ、また食 育を推進して、健康的に生活する大 切さを身につける	体育の授業や運動的行事、部活動 を実施する。 栄養に関する授業や食育に関する 情報、健康に関する情報などを発 信する、また自分の生活を見つめ る活動を実施する。	コロナ禍での対策を図りながら、出 来ることを実施していく。部活動で は、技術向上に繋がる外部指導員 の活用をする。 授業や取組の回数が合計10回以上 3 授業や取組の回数が合計8回以上 2 授業や取組の回数が合計5回以上 1 授業や取組の回数が合計5回未満	1 調査と面談を合計3回以下	1 生徒の自己評価が4段階評価でA・Bが50%未満				
				4 教職員の取り組み評価がA	4 生徒の学校生活評価A・B90%以上				
				3 教職員の取り組み評価がB	3 生徒の学校生活評価A・B80%以上				
				2 教職員の取り組み評価がC	2 生徒の学校生活評価A・B50%以上				
				1 教職員の取り組み評価がD	1 生徒の学校生活評価A・B50%未満				
特別 支援 教育の 充実	特別な支援を必要とする生 徒への支援の充実	特別な支援を必要とする生徒の理 解と支援の方策についての情報の 共有 ユニバーサルデザインの視点を取り 入れた授業の工夫・改善に取り組 む。	特別支援委員会を中心とした情報 交換や検討会を毎週実施し、外部 のアドバイザー等によるカンファ レンス等を実施する。 ICTを活用するなどの学習方法や 学習環境の取組を試みる	4 実施率90%以上	4 教職員の達成度の評価A				
				3 実施率80以上	3 教職員の達成度の評価B				
				2 実施率50%以上	2 教職員の達成度の評価C				
				1 実施率50%未満	1 教職員の達成度の評価D				
				4 全教科での実施	4 教職員の達成度の評価A				
本 校 の 特 色	開かれた学校と家庭・地域 との連携	学校支援本部とう連携を図り、様々 な活動を試み、また外部の人材を活 用する。 学校情報を地域・保護者に積極的に 発信する。	学生や保護者・地域の方のボラン ティア活動を実施する。 学校、学年だより等の発行と、HP を利用して情報発信をする。	3 実施率80%以上	3 教職員の達成度の評価B				
				2 実施率50%以上	2 教職員の達成度の評価C				
				1 実施率50%未満	1 教職員の達成度の評価D				
				4 地域の人材活用の取組を年8回以上実施	4 保護者の評価が4段階評価でA・Bが90%以上				
				3 地域の人材活用の取組を年6回実施	3 保護者の評価が4段階評価でA・Bが80%以上				
本 校 の 特 色	開かれた学校と家庭・地域 との連携	学校支援本部とう連携を図り、様々 な活動を試み、また外部の人材を活 用する。 学校情報を地域・保護者に積極的に 発信する。	学生や保護者・地域の方のボラン ティア活動を実施する。 学校、学年だより等の発行と、HP を利用して情報発信をする。	2 地域の人材活用の取組を年4回実施	2 保護者の評価が4段階評価でA・Bが50%以上				
				1 地域の人材活用の取組を年2回実施	1 保護者の評価が4段階評価でA・Bが50%未満				
				4 学校・学年便り発行計60号以上、HPの更新毎週2回以上	4 保護者の評価が4段階評価でA・Bが90%以上				
				3 学校・学年便り発行計50号以上、HPの更新毎週1回以上	3 保護者の評価が4段階評価でA・Bが80%以上				
				2 学校・学年便り発行計40号以上、HPの更新隔週1回以上	2 保護者の評価が4段階評価でA・Bが50%以上				
1 学校・学年便り発行計40号以下、HPの更新隔週1回以下	1 保護者の評価が4段階評価でA・Bが50%未満								